

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104308
法人名	有限会社メディケアサポート
事業所名	グループホームわかば
所在地	愛媛県松山市若葉町7-6
自己評価作成日	2009年 11月 25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎月のわかば便りにより施設全体の様子や、個人個人の近況をお便り形式で、写真も同封、郵送にて連絡報告、さらにこまかい異変についても、ご家族との連絡を密に行い、安心、安全に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は「どう思う？」と職員の意見も聞きながら取り組みをすすめておられ、現場職員で気付きを出し合い、話し合われている。転倒防止のために食堂のテーブルの位置をずらす等、環境を見直されたり、日中の過ごし方を見直し、夜間ゆっくり休んでもらえるよう生活リズムを整える等、利用者の生活の改善に向けて取り組まれている。
 日中、トイレで失敗される方が夜間には失敗がない事に職員が気が付き、ご本人が夜間はネグリジェを着用されていた事から、日中にスカートを利用することで「失敗がなくなった」という例がある。
 仏壇を持って来られている利用者は、毎日ご自分でお水を供えておられる。昼食後に居室で新聞を読んでおられる利用者が見られたり、テレビを見て「あっはっはっ」と笑い声が聞こえてきた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームわかば

(ユニット名) 3階

記入者(管理者)

氏名 宮田 亜由美

評価完了日 2009年 11月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) フロアに理念を掲げている。その理念を意識した支援をこころがけている。	
			(外部評価) 事業所開設時に「人生の継続性を大切に、自分が自分として生きていく」と理念を作成しておられ、毛筆で書いた理念を額に入れて廊下に掲げておられる。管理者は、理念を具体的に職員に話し、実践に向けて取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開催される防災訓練、清掃活動等積極的に参加するようにしている。	
			(外部評価) 散歩時には、近所の方とあいさつを交わしたり、声をかけてくださることもある。ご近所の方が月に一回くらい、利用者のお話し相手に来てくださっている。地区の運動会に参加された際、利用者は、地域の子も達が活躍する姿を見て喜ばれた。大正琴のサークルの方々や稽古している踊りを見せてくれる子どもさんもあり、利用者は熱心に見て楽しまれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、ホームの近況報告や御意見に応え、ご理解、ご支援して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に一度開催している。地域の方、ご家族、入居者の意見を反映するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議では、事業所から利用者の近況報告をされ、出席者からは、地域の清掃活動や公園での盆踊り等、地域の情報を教えてもらっている。地域との交流について「近隣の学校等にも声掛けをして交流の機会を作ってはどうか」等のご意見をいただいた。</p>	<p>事業所では、会議に、利用者やご家族に多く参加していただきたいと考えておられた。又、会議時、事業所のケアや取り組みの実際を見ていただいて出席者にご意見をうかがう等、事業所のさらなるケアサービスの質の向上に向けて、会議の内容やすすめ方の工夫を重ねていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>不明な点など、その都度相談する様にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の担当者に生活保護受給者の生活について相談をされたり、地域包括支援センターの方に電話でドライブの行き先等を相談して情報をいただくこともある。運営推進会議時には、地域の方からの質問にも答えていただくこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>全ての職員が具体的な行為を正しく理解できているかは疑問を感じる。勉強会等の必要があると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>グループホームは、2、3階にあり、エレベーターのドアの開閉時には音が鳴るようにされている。気ままに外に出る方には、職員が付き添うようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 各フロアに高齢者虐待防止法に関する資料を配布しており、いつでも見られるようにしている。職員同士が注意し合える様取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) フロアの職員には知識のある者と、ない者がいる。今後、研修会など学ぶ機会が必要だと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項の説明は十分に行なっている。不安や疑問点に関しては、その都度連絡するようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などには「気になる事などありませんか」等声をかけている。 (外部評価) 毎月発行されている「わかば便り」で、事業所の行事を写真入りで紹介されており、利用者個別に日頃の様子を書いた手紙と一緒に、ご家族に送付されている。又、花見、餅つき、夕涼み会、誕生日会等には、ご家族も参加して楽しんでいただけるよう案内を同封されている。ご家族から「すべての職員の顔と名前がわかるようにしてほしい」との希望があり、各ユニットに全職員の顔写真と名前を掲示されていた。	管理者の交代が8月にあり、管理者は、ご家族からご希望やご意見が聞き取れるような関係作りに努めておられる。今後さらに、利用者の日中の過ごし方や外出等の支援への要望や、又、不安や心配に思われていること等、ご家族とゆっくりお話するような機会を作ってはどうか。ご家族と話し合う中でのご意見等を、運営に反映していくような取り組みも期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行っている主任会や各フロアのミーティングで意見を聞く様にしている。	
			(外部評価) 管理者は「どう思う？」と職員の意見も聞きながら取り組みをすすめておられ、現場職員で気付きを出し合い、話し合われている。転倒防止のために食堂のテーブルの位置をずらす等、環境を見直されたり、日中の過ごし方を見直し、夜間ゆっくり休んでもらえるよう生活リズムを整える等、利用者の生活の改善に向けて取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 主任会、各フロアのミーティングに出席。さらに個人面談を実施、状況を把握している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 希望者はいつでも研修を受けられるように開催予定の案内を常に掲示している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今後交流する機会を作っていければと思う。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談、入居時に耳を傾ける様努めている。不安の一つ一つをその都度解消できる様、日頃接するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い、サービスの利用を開始する前にご家族の話をお聴きと共、不安のない様十分説明をしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査時に十分な説明、支援のあり方について理解して頂けるよう努める。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を通じ、ほとんどのスタッフが出来る。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一部ではあるが、入居者とご家族との手紙のやりとりをされていたり、日常の様子を手紙にし、ご家族へ伝えている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 希望時、電話の取次ぎを行ったり、近所の美容室にきてもらったりしている。 (外部評価) ご家族が迎えに来られて、一人暮らしをされていたご自宅に戻り過ごされたり、ご家族と外食に出かける方もある。ご自分の携帯電話で、お好きな時にご家族と連絡を取り合っている方もある。ご本人の体調のこともあり、行きつけの美容室に出かけることがむづかしくなった方の希望もあり、職員が美容室と相談して、美容師の方が来て、カットして下さるようになった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士の会話がスムーズに行える様、スタッフが間に入ることで以前より会話や笑顔が増え、お互いのことを気遣える様になって来た。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	相談などの実績が無い。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日頃の会話や行動などから把握に努めている。
			(外部評価)	
			職員は、利用者との日々の中で思いの把握に努めておられ、特に、入浴時や夜間、起きて来られた際には、ゆっくりお話しするように心がけておられる。日々知り得た情報は、連絡ノートに記録して、職員で共有し、介護計画につなげるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	ご家族の面会時など、無理のない程度に教えて頂いている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	気持ちや行動に対し、少しの変化にも気付ける様努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カンファレンスをもとに、ケアプランを作成。それぞれの立場から意見を出し、ご家族、本人の希望にそえる様努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の作成時には事業所でカンファレンスを開き、ご本人やご家族にも出席いただき、話し合われている。ご家族から「以前されていた茶道が続けられるよう、お茶を点てる機会を作ってほしい」との要望があり、利用者の希望等も聞きながら計画に採り入れ、支援をすすめておられる。3か月毎と状態の変化があれば、見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録は詳しく記録している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランの見直しを行なっている。ご家族を含めたカンファレンスを行い、その時々生まれるニーズに対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>消防署の協力により、消防訓練。民生委員による地域行事への協力。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一度、往診して頂いている。24時間連絡が 取れるようになってきている。 (外部評価) 法人代表者である母体病院の医師が2週に1回、看護 師と一緒に往診に来てくれるようになってきている。他の 医療機関を受診する際は、ご家族の都合に合わせて、 職員が付き添われることもある。ご家族からご本人の 病状や治療等、医療について質問があった場合は、連 絡を取り、母体病院の医師からご家族に電話等で説明 してもらうようになってきている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 24時間いつでも相談が出来るようになってきている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報収集を行い、医療機関や主治医と相談している。 また、可能であれば面会も行くようにしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) カンファレンス時など意向を聞いているご家族もい るが、まだ全員ではない。 (外部評価) 事業所では入居時に、希望があれば看取り支援を行 えることを説明されており、利用者の状態に応じて、ご 家族や医師と具体的に話し合われている。入院をされ た利用者が「ホームへ帰りたい」と希望され、事業所 で最期まで支援された事例もあり、他の利用者がご本 人の居室を訪れ、手を握り見舞われる様子もあったよ うである。亡くなられた後、ご家族からは「病院では なく、馴染みの生活の雰囲気の中で最期を迎える事が できてよかった」との感想をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) その都度指示を受け動く様にしているが、定期的な訓練は行なえていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防訓練を行なっているので避難方法は身につけている。今後も徹底していきたいと思う。 (外部評価) 町内会長から「地区の防災訓練をホームで行いたい」との依頼があり、強い揺れの地震災害を想定した避難訓練を消防署の指導のもと、地域の方と一緒に実施された。消防署の方からは、毛布を利用して利用者を避難させる方法を教えていただいた。	管理者は、次回の避難訓練には、毛布を利用する避難方法を行ってみることを考えておられた。さらに、利用者と職員の安全・安心のために様々な場面を想定した避難訓練を重ねていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ほとんどの職員が出来ているが、全く無いとはいえない。 (外部評価) 管理者は、職員に利用者「してあげているという思いを持たないということ」や「時間をおく関わり方」の大切さを日頃から職員に話しておられる。昼食後に、薬の服用を嫌がられた利用者に職員は、少し時間をおいてから声を掛け支援されていた。職員は、利用者を人生の先輩として「敬う」気持ちを大切にされており、日々の関わりの中では「ご本人が出来る事、出来ない事を見極める」ことを常に意識していると話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 不満を言いやすい環境づくり、関係づくりに努めている。自己決定しやすいよう、質問を2択にするなど会話も工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日その日の体調や本人の意志を尊重した個別介助ができる様努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみやおしゃれに興味を持てる様な会話を日常生活に取り入れたり、近所の美容室に定期的に来て頂いたりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 彩りなどにも気を配り、盛り付け、配膳、片付けなど出来ることは一緒に行なう様にしている。	
			(外部評価) 昼食時、わけぎのめたを利用者の方3名が協力して作ってくださっていた。職員は利用者の中に入り、食事の介助をしながら利用者と同じものを食べておられた。食後、ご自分の食器や前の席の方の食器を運び、職員と一緒に食器洗いをされている方も見られた。その日の献立は、主菜を職員が決め、副菜は利用者とは相談しながら決めておられる。献立は煮物等の「和食中心の献立」を心がけておられる。若い職員は、煮物やお寿司の味付けを利用者に教えていただきながら作っておられる。午前と午後のお茶の時間には、コーヒー、紅茶、ココア、ジュース等、好みで選べるようになっていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 日誌へ献立や食事量を記入している。水分量はそれぞれ好みのものを用意することで対応できている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけ、見守りを行なっている。自分で出来ない方には介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄パターン表を利用し、失敗を少なくしている。	
			(外部評価)	職員は、トイレでの衣類の上げ下ろしがご自分でしやすいように、下着やズボンは、ゆったりしたサイズのものをご家族に用意してもらえようすすめておられる。日中、トイレで失敗される方が夜間には失敗がない事に職員が気が付き、ご本人が夜間はネグリジェを着用されていた事から、日中にスカートを利用することで「失敗がなくなった」ような例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	毎日排泄の有無は把握している。十分な水分補給とメニューの工夫に努めている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	入浴できる事は伝え、入るか入らないかは本人さんに決めて頂いている。入れない日が続くと清拭で対応している。	
			(外部評価)	風呂は毎日沸かし、週に2~3回は、みな入浴できるようにされている。入浴日を決めずに、声掛けをしてご本人の気分に合わせて支援されているユニットもある。職員は、利用者と一緒に浴槽に浮かべてお風呂を楽しんだり、居室に、洗面器の中に石鹸やシャンプーをいれた入浴セットを準備されて、それを持って浴室の「ゆ」と書かれた暖簾をくぐるのを楽しみにされている利用者もおられる。入浴後には、バスロープを着て居室に戻り着替えをされる方もあり、個々の習慣等も踏まえて支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	個人個人の体力等考慮し、休みたい時に休める様支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れのない様何度もチェック出来る様にしている。薬が変わった時には、特に体調の変化に気を付けている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔からの週間を日常生活に取り入れたり、嗜好品は個別に購入したりして希望にそえる様にしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所であれば外出できているが、その日その日の希望には応えられていない。外食、旅行はご家族の協力を得て行なっている。	
			(外部評価) 近くにマーケットがあり、職員は利用者と食材の買い足しに行かれたり、天候をみて事業所の畑や近くの公園に散歩に出かけておられる。利用者の希望で年賀状や切手を買いに同行されることもある。洋服を買に行かれたり「花や海が見たい」等、利用者からの希望をきっかけにドライブを楽しまれることもある。	現在、利用者の中には外出を嫌がられるような方もあるようだが、利用者が「出かけたくなる」ような環境等、雰囲気作りや職員のかかわり方等も工夫を重ね、利用者個々が日常的に外に出て気持ちよく、生き生きと過ごせるよう支援を工夫されてみてほしい。又、ご家族や地域の方の力も借りながら支援につなげてみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の了承を得た上で、小額持たれている方が多い。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の受け渡しや電話の取次ぎは出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアには、入居者とスタッフが毎月一緒に作成する壁画を掲示している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、居間にクリスマスツリーや壁面にはサンタクロースの絵も飾られていた。昼食後に居間のソファに腰掛けた利用者が演歌を歌い始めると、職員や他の利用者が手拍子で一緒に歌われる様子がうかがえた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアの一角についたてを置き、その椅子で過せる様になっている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ほとんどの入居者が、居室に置く家具を自宅より持って来られている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>使い慣れた鏡台の上にひ孫さんの写真を飾り、壁には誕生日に職員から贈られたお祝いメッセージや写真入りの色紙が飾られていた。仏壇を持って来られている利用者は、毎日ご自分でお水を供えておられる。昼食後に居室で新聞を読んでおられる利用者が見られたり、テレビを見て「あっはっはっ」と笑っておられる声が聞こえてきた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>フロア、トイレ、浴室には手すりがある。</p>	